

事例 1

誰もが楽しめる劇場を目指して

～みんなで一緒に楽しむための鑑賞サポート～

東京芸術劇場

神保富美子

一般社団法人文果組 代表理事

事業概要

東京芸術劇場では2012年のリニューアル・オープン以来、多様な文化芸術事業の開催と共に、視覚・聴覚に障害のある観客を対象とした鑑賞サポート事業を本格化した。

2012年の開始時は年間8回であったが、2016年度より東京都の委託事業としての位置づけとなり、2018年度には年間27回に増え、2019年度までの累計は128回、合計600人以上の観客が鑑賞サポートを利用している。観客は若者から高齢者まで、学生や社会人など様々である。

野田秀樹芸術監督をはじめ、職員全てが公共の概念や都の芸術劇場としてのミッションを共有し、鑑賞サポート事業については、「あらゆる人が芸術文化を享受できる環境をつくる」ことを目指し、創意工夫を重ねている。

演劇公演における鑑賞サポート

2012年度より演劇公演において、聴覚に障害のある観客のための字幕サービスと、視覚に障害のある観客のための舞台説明会を本格化した。前者は公演の音声情報を文字情報に置き換えて伝えるもので、観劇中に手元にあるポータブル字幕機に台詞や音響効果の説明が表示される。後者は視覚情報を音声情報や触覚などに置き換えるもので、開演前に舞台装置や役者に関する説明を聴き、体感することができる。

なお、2017年度からは、視覚に障害のある観客向けの鑑賞サポートとして、舞台説明会に加えてライブの音声ガイドも導入している。これは、舞台上の役者の動き、場面転換、照明効果などの説明を、観劇中にイヤホンで聴けるものである。観客はレシーバーとイヤホンを使って、開演までは補足的な情報、上演中は役者の動きや場面転換など、舞台の進行に従ってライブのガイドを聴くことになる。



音声ガイドの使命は、作品の世界観をそのまま伝えることである。聴き心地のよい、過不足のない説明を行うためには、作品の理解に加え、高度なテクニックと経験が求められる。説明者は台本を読み込み、公演映像を何度も確認し、精緻な台本をつくり、事前練習を重ねた上で当日を迎える。この説明を誰に委ねられるかについても試行錯誤を繰り返した。現在では、演劇に精通し、視覚障害のある方のニーズに理解のある外部の専門家に依頼している。



音楽公演における鑑賞サポートなど

音楽公演については、2015年度より、世界最大級のパイプオルガンを使用したコンサートにおいて、視覚に障害のある観客と付添いの方を対象に開演前の公演説明会を開始した。この鑑賞サポートでは、オルガンのパイプの模型を手にとりつつ、パイプオルガンの仕組みや当日の演目と作曲家、演奏家などに関する説明を聴くことができる。

また、2018年度からは、聴覚に障害のある観客を対象に、パイオニア（株）と連携し、ボディソニックも導入している。ボディソニックは振動装置が組み込まれたポーチとザブトン

クッションで構成されており、これを使用すると小音量でも振動ユニットからは臨場感溢れる重低音振動が直接体に伝わり、聴覚に障害のある方も音楽を楽しむことができる。

東京芸術劇場では開館当初から4つのホール全てにヒアリングループを敷設している。これは、ループアンテナ内に誘導磁界を発生させて補聴器や人工内耳を利用する難聴者の聴こえを支援する機器で、演劇・ダンス・音楽の主催・共催公演で作動している。また、全ての公演で、警備や接客スタッフが車椅子や白杖のお客様のサポートを行っている。



協力：株式会社イヤホンガイド

共生社会の実現を目指して

2020年は新型コロナウイルスの蔓延により、接触が多くなる鑑賞サポートをどのように実施できるかについて、休館期間中に職員間で協議を重ねた。その結果、1年先まで感染防止対策を行うことを見込んだ上で、「公演が行われるのであれば鑑賞サポートも実施されるべき。対策を講じた上で、鑑賞サポートも実施する。」という結論に至った。実際に鑑賞サポートを行うと、お客様より「実施してくれてありがとう！」という声があった。

東京芸術劇場の鑑賞サポートにおける最終的な目標は、「障害のある観客が劇場に来て、公演を見たい、聴きたいと思った時に、ニーズに適した鑑賞サポートを受けられる」という「共生社会」の実現である。その目標に向かって、鑑賞サポートの内容、回数、情報発信など工夫を重ねている。例えば、障害のある方への声かけは、現状では主として各支援組織を通じて行っているが、SNSを効果的に活用するなどし、より多くの方に情報が伝わり、鑑賞サポートの利用者が増えていくことを目指している。

また、鑑賞サポートごとに観客の感想を集め、観客からの要望を次回に反映できるよう努めている。「セリフ以外の行間の思いがよく伝わった」「開演前に役者の声を録音で聴くことができたらもっとわかりやすいのでは」など様々な意見を鑑賞サポートのさらなる発展に活かしている。

東京芸術劇場

住所：東京都豊島区西池袋1-8-1

概要：都民のための総合芸術文化施設として1990年に開館。パイプオルガンのあるクラシック専用の大ホール（1,999席。車いす用スペース8席）、演劇・舞踊等の公演を行う中ホール（834席）と2つの小ホール（272～324席／195～278席）のほか、4つの展示スペース、会議室、リハーサル室などを備える。2009年、野田秀樹氏が初代芸術監督に就任。自主公演企画や優れた芸術団体との連携等のほか、教育普及・人材育成事業にも積極的に取り組んでいる。管理運営は2002年から公益財団法人東京都歴史文化財団が担う。

